

令和3年度 第2回北海道 Society5.0 推進会議
「デジタル人材育成・確保ワーキンググループ」 開催概要

1 日 時

令和3年8月30日（月）15:00 ～ 17:00

2 実施場所

Web 会議

3 出席者

別添「出席者名簿」のとおり

4 議 題

別添「次第」のとおり

5 議 事

(1) 議事1 本日の会議について

・事務局（北海道）から説明（資料2）

(2) 議事2 第1回WGでの意見等の取りまとめ結果

・事務局（北海道）から説明（資料3）

- 北海道に必要なデジタル人材の分類分けについては、概ね問題ない。
- マッピングについて、個人の定義が曖昧に見える。企業人なのか、道民一般を捉えているのか整理をした方がよい。
- こういった資料を整理するのはいいが、具体的な使い道も考える必要がある。
- 人材のピラミッドの頂点にある専門人材の専門性について、学術寄りではなくビジネス寄りを想定していた。その辺りで齟齬がないようにすべき。
- 学術寄りの人はこの軸とは別なところにいる気がする。少なくともヒエラルキーのトップではない。

(3) 議事3 意見交換（一部非公開）

・事務局（北海道）から説明（資料4・非公開）

（全体に関して）

- 自治体 DX に関しては、勝負はすでに始まっていて、具体的な行動を起こして3年後位には変わり始めている必要があると感じている。
- オンラインの活用を積極的にしてはどうか。
- 課題と地域とのマッチングという視点をぜひ入れて欲しい。
- 北海道じゃないと出来ないとか産学官が連携しないと出来ないことって何をはっきりさせる必要がある。ないのであれば、やる意味は感じられない。
- 全事業で残るや引っ張ってくるといったデジタル人材の集積に繋がるような目線を持って建て付けをしてほしい。
- 地域に元々ゆかりがある方が戻ってきて活躍するという話もあるでしょうし、地域にゆかりのない方でも取り組みが1つご縁となって北海道に移住するとか、納税してもらおうとかといったことがあるような建て付けに出来ればいい。
- 人を育てるのは大変で労力も非常にかかる。地域として魅力的であれば、ある程度能力のある人が戻って、集まってきてくれるというのは非常に夢のある話。そういったサイクルにぜひ近づけてほしい。

(4) 議事4 今後の進め方について

・事務局（北海道）から説明（資料5）